

わくわくが止まらないきょうりゅうはく物館のぼうけん

桜木小・3 辻村 珀人

「やばい。めっちゃ心ぞうがバクバクしてる。」

きょうりゅうが大すきなぼくは、楽しみすぎて前日から心ぞうがバクバクしていました。少し前にお母さんから、

「お知らせがあります。なんと、ついに、福いきょうりゅうはく物館に行きます。」

と、言われました。とつぜんのサプライズに、きょうりゅうが大すきなぼくは、ずっとニヤニヤが止まりませんでした。

二才のときからきょうりゅうが大すきなぼくは、きょうりゅうマニアれき七年です。七年でフィギュアもいっぱい集めました。学校の勉強は、すぐにはおぼえられないし、宿題もやりたくないけれど、大すきなきょうりゅうのことは何でもすぐに調べて、すぐにおぼえられます。

いろいろなしゅるいのきょうりゅうがいますが、ぼくは、「シノケラトプス」が一番好きです。シノケラトプスは、アジアさい大級の角りゅうで、顔の角がすごく大きくて、なんとと言っても、えりかざりのとげがたくさんあって、とってもかっこいいのです。

図かんやテレビでいろいろなシノケラトプスを見たけれど、ぼくはジュラシックワールドに出てくるシノケラトプスが一番かっこよくて大好きです。とくに、たたかいのシーンでの、大きなかっこいいえりかざりや、角を使ってヘラクレスオオカブトのようにてきの

頭をはさんで地面にたたきつけるすがたが、とても気に入っています。ぼくは、そのシーンがすきすぎて、何度も何度もえい画を見たいです。見すぎてしまい、家族には、

「また見ているの。もうきょうりゅうばかりやめて。」

と言われます。でも、何回見ても、全くあきないし、どきどきわくわくします。

そんなぼくは、お母さんから発表があつてから毎日、

「大すきなシノケラトプスはいるのかな。」

「はく物館はどれぐらいの大きさなのかな。」

「福い県までどれくらいかかるのかな。」

頭の中は、きょうりゅうはく物館の事でいっぱいです。こんな気持ちになったのははじめてでした。

ついに出発の日が来ました。朝早かったのですが、はく物館に行く途中で、ぼくは車の中でねてしまいました。頭の中がきょうりゅうでいっぱいだったせいかな、ぼくのゆめの中もきょうりゅうでいっぱいでした。

目がさめると、もう福い県でした。はく物館に近づくにつれて、いろいろなしゅるいや大きさのきょうりゅうを見るようになります。

「もうすぐだ。」

と、きょうりゅうを見るたびにぼくのテンションが上がっていきました。

そして、ついにはく物館に着きました。外にもきょうりゅうがたくさんいたけれど、ぼくは早く中に入りたくて、ひたすら入口まで歩きました。中に入って、一気に一階までおろることができる長い

長いエスカレーターに乗りました。動くティラノサウルスが見えました。ぼくよりずっとずっと大きなティラノサウルスです。とてもかっこいいなと思ったけれど、ぼくのめあてはちがいます。

いよいよはく物館を回ります。はじめは家族みんなで回っていたけれど、みんなはゆつくりだったので、ぼくはがまんができずにうずうずしてきました。

「もつと自由に見たいんだ。」

ぼくは、家族とべつ行動することに決めて、写真をとるために、ケータイをにぎりしめて、はく物館をぼうけんし始めました。大すぎなきよりゆうだから、たくさんの人の中に一人でも全くこわくありません。わくわくが止まらないのです。歩けば歩くほどいろいろなきよりゆうの化石がありました。ぼくは、ひたすらかっこいい化石の写真をとりながら歩きつづけました。

しばらく一人で歩いた後、いやな予感がしました。

「あれ。大すぎなシノケラトプスがない。」

ぼくは、広い広いはく物館を何しゆうも何しゆうも回りました。人もどんどんふえてきて歩きにくくなりましたが、シノケラトプスをさがすためにがんばって歩きました。それでもシノケラトプスには会えません。家族みんなに聞いたけれど、だれもシノケラトプスを見ていないそうです。そこで、ぼくは気づいてしまいました。このはく物館にはシノケラトプスがないようです。

「えっ、うそだろ。なんでシノケラトプスがないんだ。ジュラシックワールドに出て有名になったんじゃないの。え、何で。」

ぼくは、とてもショックでしたが、

「でも、たくさんのかよりゆうが見れて楽しかったし……。」

と心の中で何度も自分に言い聞かせました。こうして、ぼくのはく物館のぼうけんは終わりをむかえました。